



番外その1

原城（島原・天草一揆）

（長崎県南島原市南有馬町）

鳥越一向一揆歴史館友の会／北陸城郭プロジェクト 塩谷忠士

友の会の世話人をしております塩谷です。今回は南島原市の原城を紹介する一向一揆紀行番外編です。有馬貴純により明応5年（1496）に築かれた原城は、周囲4キロの三方を有明海に囲まれた天然の要害です。元和2年（1616）有馬氏に代わり松倉重政が入封し、一国一城令により島原城を本城と定めて原城は廃城となりました。松倉氏は島原城を新築したり江戸城改築の公儀普請役を受けたりしたことで領民に重い年貢をかけ、厳しいキリシタン弾圧も始めたために、寛永14年（1637）反乱が起き、一揆軍は廃城になっていた原城に立て籠り約4ヶ月間江戸



原城本丸跡 四郎家のあった本丸門辺り

幕府と戦いました。一連の戦いを私は島原の乱と憶えましたが、今は島原・天草一揆、島原・天草の乱と呼ぶそうです。反乱は松倉氏が治めた島原半島だけでなく、寺沢氏が治める唐津の飛地だった天草諸島にも波及しました。天草四郎時貞を総大将として原城に籠城した一揆軍は約3万7千といわれ、幕府軍12万との壮絶な攻防で落城し、一揆軍の多くは惨殺されました。一揆軍の中核がキリスト教徒であったためにキリシタン一揆の印象が強いですが、有馬氏や小西氏（旧天草領主）の浪人や旧土着領主であった天草氏・志岐氏も一揆方に参加していて、宗教戦争ではなく一向一揆と同じ権力闘争と現在は評価されています。今年の冬に原城を訪れた時、数万人が籠城する城とはこんなに広いのかと驚きました。本丸には南島原市出身の彫刻家北村西望制作の天草四郎像と西有馬町の民家の石垣に埋もれていた天草四郎の墓石がありました。近くの有馬キリシタン遺産記念館では原城を詳しく知ることができました。

後日、一向一揆歴史館叢書7を読んで思うことがありました。昭和60年（1985）に鳥越城が国史跡指定を受けた時に文化庁の担当調査官であった服部英雄先生（当時は九州大学大学院比較社会文化研究科教授）が平成15年3月に鳥越村で開催されたシンポジウムで発言された内容ですが、平成合併前の鳥越村と南有馬町は友好町村の関係であったというのです。ともに武家権力と戦った城を持つ村であること、一揆の中核が一向宗とキリスト教という宗教信仰であることから提携が実現したと想像されます。平成合併により友好町村は解消されましたが、鳥越城と原城はその歴史的重要性からともに国指定史跡であり、その後続日本100名城とユネスコ世界ジオパークの構成遺産に選定されたので当時よりさらにつながりが強くなりました。原城の国史跡指定は昭和13年、ユネスコ世界ジオパーク認定は平成30年、と鳥越城に先行する取り組みは貴重であり南島原市と再び姉妹都市提携してはどうかと思うのです。

参考資料
一向一揆歴史館
叢書7
「北陸中世城郭
の整備と活用」

島原半島ユネスコ世界ジオパークホームページ
ほか



祈りを捧げる一揆の総大将天草四郎像



有馬キリシタン遺産記念館